

# 道岳連だより

広報 NO.70  
平成26年1月10日  
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-HAA.net/>

## 2014年新年あけまして おめでとうございます

北海道山岳連盟会長 小野 倫夫



皆様、新しい年、いかがお迎えでしょうか

昨年の道岳連を顧みますと充実感と後悔の相半ばする年でした

北海道山岳遭難防止対策協議会と共催で開催した「安全登山シンポジウム」はエベレスト登頂三浦雄一郎氏を主講師に警察庁の山岳遭難救助の第一人者、高瀬 洋氏と国際山岳医療医、大城和恵氏という方々の出演に会場は関心の高さもあり満員でした。

4回目を迎えるアウトドアフェスティバルはオリエンテーリング協会との共催で道岳連担当部門トレイルランニングは目標としていた参加数500まであと数名でした。

第27回全道交流登山会は、取り組みの遅れから参加数は200に届きませんでした。日高町のご協力と参加者の熱気で荒天の中でしたが友情、親睦、交流の目的は達しました。

各委員会の活動ではほぼ予定通りにおこなわれました。

指導委、競技委によるアルパイン、クライミングそれぞれの講習検定や海外委などによる夏山講習、中高年安全登山、山岳スキー講習、氷壁講習、更に遭対委の夏、冬遭対講習、研修など会員外の参加を含め実施しました。又ジュニア委の少年少女登山教室は久しぶりに参加者数が20を越えました。

それぞれ昨年度より参加者数が多く、道内外、一般登山愛好者の参加者もあり（公益社団）日山協にある道岳連の活動が着実に理解されてきたと思います。

国体は昨年の天皇杯、皇后杯ともに2位という成績には達しなかったのは残念です。しかしボルダリングでワールド年間総合優勝の杉本 玲君や女子Jrで5位につけている小武芽生さんの活躍が道内多くのクライマーを刺激し、今後さらなる活躍が期待されます。

残念ながら道岳連の研修会で滑落、落石事故がありました。幸いにも事故にあった会員は今、ほぼ回復している状況です。

無くならない山岳事故ですが、予防、防止に更に取り組みを進めていきます。

登山界は、少子、高齢化による会員減少、会解散があり、厳しい反面、新たにクライミング協会、トレラン協会などの加盟などがあり、山ガールに象徴される登山のスタイルや対応に社会の変化、時代の流れを感じます。

このような中、道岳連はこれからも会員皆様の要望に応えられる組織として前進いたします。

最後に、今後、道岳連が更に発展するよう皆様の倍旧のご支援ご協力をお願いし、皆様方にとって充実した良い年であることを祈念して年頭の挨拶とします。

# 安全登山シンポジウム

平成 25 年 11 月 19 日 札幌エルプラザ



北海道山岳遭難防止対策協議会と北海道山岳連盟が主催する「平成 25 年度 安全登山シンポジウム」が、11 月 19 日(火)札幌エルプラザ 3 階ホールが満席になる 359 名(道岳連 130 名)が参加して開催された。

小野道岳連会長の開会挨拶の後、特別講演に移り警察庁広域技能指導官・富山県警山岳警備隊長の高瀬 洋氏が、全国の山岳事故の発生状況や北海道では近年のバックカントリースキー等の普及による若年層の遭難事故が目立ってきている点など、事故形態の違いなどの実態を話された。2012 年 5 月 23 日に世界最高齢の 80 歳でエベレスト登頂を果たした三浦雄一郎氏は、様々なハンディを乗り越えた経緯から「夢は諦めなければ叶うもの、大切なことは山頂へむけて刻む、一步づつ」、エベレスト挑戦の過程や仲間や家族との絆、人生における目的と「夢」を持つことの大切さを、登頂のドキュメント映像を交えて語られた。

国際山岳医で、三浦氏のエベレスト登頂を医療面で支えた大城和恵氏は、現地での状況などとあわせて、遭難事例を紹介しながら、低体温症や心疾患などにおける最新の応急処置の方法などについて説明した。休憩のあと、共同通信社編集委員・論説委員の小澤 剛氏を司会者に、3 講師によるパネルディスカッションが行われ盛況のうちに閉会した。



今年で 5 回目を迎えた「北海道アウトドアフェスティバル トレイルランニング大会 2013」は、9 月 21-22 日の両日にわたりルスツリゾートスキー場及び貫気別岳周辺で開催され、昨年の 278 名を大幅に上回る 493 名が出場した。今大会から新設された 70 km は 93 名がエントリーし、まだ夜が明けきらぬ 5 時にヘッドランプを着けてスタート、累積標高差 4,080m の過酷なレースを制したのは、ビッグワゴン所属の大田原 寛選手で、優勝タイムは 9:09:12 だった。次回の 2014 大会は 9 月 20-21 日開催で、受付開始は 6 月 1 日からとなっている。

競技役員としてご協力をいただいた道岳連会員の皆様、大変ご苦勞様でした。



# 行事・各委員会事業報告

## 第27回全道交流登山会 8/24-25 日高町沙流川オートキャンプ場

今年の全道交流登山会は常任理事会が主管しました。各委員会は年間事業を抱えながら、その合間を縫って交流登山会を交流登山会を取組みました。従って、総体的に取り組みが遅れ、その影響もあり170名と予定より参加者が少なくなりました。

今年の交流登山会で特筆すべき事柄は、キャンプ場の予約、交流会テントの提供・設営、食材の提供、売店出店など、日高町並びに日高町観光協会の絶大な応援をいただき、盛大に盛り上がった交流会、開会式では朝からの豪雨がその時間だけ晴れ間になり、アトラクションでは地元「ルピトリオ」の演奏が花を添え、まさに交流登山会に相応しい雰囲気醸し出しました。

登山会では、前日からの雨、明け方の雨で、沢横断のある北戸蔦別岳、チロロ岳、ペンケヌーシ岳の3コースは中止を余儀なくされました。まことに残念でしたが、天候の変化には逆らえませんので、仕方がありませんでした。

開会式直前、キャンプ場の大木が大雨の影響で突然倒れ、参加者のテントを直撃するアクシデントが発生しました。しかし、大事に至らなかったのは全くの幸運でした。参加者がテントから出た数分後に起こった倒木事故、もしテント内に居たら… 背筋が寒くなる事故でした。

登山の日は閉会式を繰り上げて、朝に行ってしまうなど異例の対応になりましたが、来年は室蘭岳連及び登別嶺友会が主管して開催されることが決まり「室蘭の地で会いましょう」を合言葉に終了しました。

天候の不順という困難に直面しながらも、大会が成功裏に終了できたのは、運営委員の皆様が大会成功に向けてそれぞれの担当ごと、精一杯汗を流した働きが実を結んだものです。

最後に休日・夜間にもかかわらずご協力いただいた日高町並びに日高町観光協会の皆様に重ねて感謝申し上げます。 (実行委員会 会場設営・交流会担当 荒堀 英雄)



地元「ルピトリオ」の演奏

## 第2回理事会 10/27 道立総合体育センター

平成25年度第2回理事会は、10月27日(日)午前10時より66名(委任状17)の理事・代議員が出席して北海道立総合体育センターで開催した。会議の冒頭、9月14日に69歳で逝去された奈良憲司さんに黙祷を捧げた。

提出議案は、第1号議案 平成25年度前期事業報告について 第2号議案 平成25年度後期事業予定について 第3号議案 各種議題 第4号議案 遭難事故報告 5 その他 で、神山理事長は、平成25年度前半を振り返る中で ①傘下団体間の連携は概ね取れているが、組織末端までの情報伝達に課題あり ②山岳指導員、特に新たに資格取得した指導員の事業協力が不足 ③道岳連事業の参加者は増加したが、研修会で事故が発生した ④収支の改善では、事業参加者が増加傾向にあり、特にトレランは今後期待できる ⑤個人会員制度は具



体的検討の時期に来ている ⑥トレランの道岳連内の組織としての位置づけが未だ不十分、競技委員会の担当とするよう検討 ⑦今年度中に複数のスポーツライミング上級指導員養成 ⑧業務錯綜し、各委員会事業日程が重なる事態が生じた を挙げている。前期事業報告の質疑では、トレランのスタッフ不足の解消が求められた。

後期事業が各委員会から提案され、指導委員会では山岳指導員の更新の留意事項、普及委員会は若手事業参加者の囲い込み方策の検討などについて説明があった。第4号議案は、指導委員会からの研修事故報告で、6月に発生した2件の事故状況を時系列で記録し、写真や見取図を挿入した詳細な検証報告書が提出された。

その他で、ネット上の恵庭岳山頂部分の登山解禁情報は誤報。道岳連HPカレンダー写真の提供要請などがあり、14時過ぎに散会した。

## 日高研修所納会 11/3-4 日高登山研修所・流計主山ほか

今年の納会は、登山研修所運営委員を含め70名が参加した。受付後に例年どおり内外の大掃除、冬囲いを行い、その後千栄生活館で一日目の研修。小野会長は講話で「山の日」制定の進捗状況、日山協や道岳連の組織率などを説明された。

メインの講演は、ロベニア山岳会の山下由美さんが「北海道の美しい花々(多様な生物を守るとは)」のタイトルで、スライドを交え北海道各山域の花々を紹介、さらに同じ花(種)でもそれぞれの地域における多様な環境に適応し、遺伝子が異なることなど解説していただいた。引き続き、佐藤自然保護委員長が全国・道内の自然保護活動の状況報告と自然保護指導員の更新手続きを説明、コンパス・地形図のワン・ツー・スリーと称し、回答時間を制限したテスト形式で研修をすすめた。

17時から、懇親会とオークション。恵庭山岳会の8名の皆さんが今回の食事を担当、毎回好評のオークションは苫小牧山岳会松原、新井夫妻が担当、今回は新品同様のテント一式が提供された。

二日目、参加者は今回初めて実施のツリーイング、流計主山登山、ボルダリング、応急手当、コンパス・地形図の各班に分かれ研修した。



オークション



ツリーイング

### 土屋副会長 平成25年度日体協公認スポーツ指導員表彰受賞

永年にわたりスポーツ指導者として、スポーツの指導育成及び組織化、競技力の向上などに貢献した指導者のうち、特に顕著な功績のあった者を表彰するもので、土屋さんは上級山岳指導員、道岳連副会長、旭川山岳会会長、旭川市体協理事、道北地方山遭協参与・旭川支部長などを歴任し、その山岳分野における永年の指導功績が高く評価され受賞されました。

## 第52回全日本登山体育大会 11/8-10 茨城県

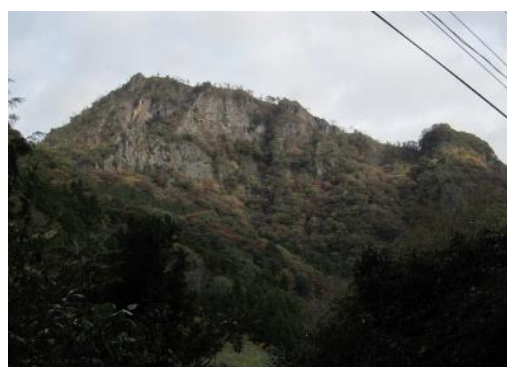
52回目を迎えた全日大会は、茨城県山岳連盟が主管して水戸市ほかで157名が参加し開催された。道岳連からは鎌田顧問、小野会長、土屋副会長、荒堀普及委員長、佐藤自然保護委員長の5名が参加した。

茨城大会は「5億年の大地を歩いて体感しよう」をテーマに、一日目は水戸市京成ホテルで開会式、記念講演会、交流会を実施。二日目は、A筑波山 B奥久慈男体山・袋田の滝 C神峰山 D竜神峡 E花園・七つ滝の5コースに分かれ山や名勝を巡った。

この大会で、土屋副会長が全日大会10回以上(実質11回目)参加で表彰をされた。次年度は徳島県で開催される。



開会式(リーダー紹介)



低山ながら険しい山容の久慈男体山

### 奈良 憲司さんご逝去

元道岳連常任理事・競技部長として活躍した奈良憲司さんが、平成25年9月14日逝去された。享年69歳。自身の出身校美唄工業高校の教諭として卓越した指導力を発揮し、同校に平成10年初代クライミングウォールを開設、平成12年から10年間部員をクライミングで国体出場に導いた。また、「登攀道場美唄」を主催し奈良誠之や國谷斗馬両氏ら多くのクライマーを育てた。

11月17日に「奈良憲司先生を偲ぶ会」と記念コンペが旧美唄工業高校体育館で催され、道岳連土屋副会長をはじめ、ゆかりの方々や道場に通う子供たちが故人を偲んだ。

## 冬期遭難対策研修会 12/7-8 吹上温泉白銀荘・三段山周辺

今年度は、昨年に引き続き上富良野町の十勝岳白銀荘周辺において、冬期遭難対策研修を実施いたしました。今年は昨年より雪の降り始めが遅く、状態を心配し研修に臨みましたが、白銀荘の周辺では1.5mほどの積雪があり、研修に問題なく実施することができました。

冬期に入り既に十勝岳連峰では遭難事故が発生し、一人が亡くなりましたが、雪崩捜索のためのビーコン操作法や積雪期の風や耐寒を意識した単独でのビバーク方法を実施しました。室内においては、平成25年11月までの道内山岳遭難状況や

ロープの取り扱いについての知識、低体温対策搬送のラッピング方法を18時30分まで研修し夕食となった。

次の日は、8時より屋外での実践研修を実施、雪崩に埋まったことを想定、ビーコンによる捜索から、掘り起し、収容、手当、保温、ラッピング、搬送まで低体温に対応した研修を行いました。

(報告 遭難対策委員会 斉藤 邦明)



埋没者を掘り起し搬送準備

## 山岳指導員(アルパインクライミング)養成講習・検定会

無雪期 10/19-20 日高研修所・上滝ロック 積雪期 11/9-10 白銀荘・安政火口



無雪期検定会参加の皆さん(上滝ロック)

滑落停止訓練(積雪期講習)



6月の講習会ではぎこちない手つきの方もいらっしゃいましたが、今回の無雪期検定では皆さん堂々と練習の成果を披露してくださいました。

11月の安政火口付近での積雪期講習では、土・日に分けて行う予定の実技訓練は、1日目に日曜日の天気の悪化を考慮して1日で全行程を終えました。中身の濃い訓練になったと思います。次の日は暴風となり、机上講習、滑落停止の形の反復練習やビーコンの使い方などの実技を白銀荘の室内で講習を受けました。

次は検定です。皆さん頑張っています。楽しみです。(報告 指導委員会事務局 小林 君枝)

## 山岳指導員(スポーツクライミング)養成講習・検定会

9/28-29 & 11/2-3 札幌市産業振興センター・レインボークリフ



ルートセットの意図を説明する受講者



講習スタッフと受講者

平成 25 年度のスポーツクライミング指導員養成講習会と検定会は、9 月と 11 月の二回にわたって実施された。

9 月 28-29 日は、6 人の講師によるクライミングの基礎理論講習と実技指導実習をそれぞれ 10 時間。11 月 2-3 日は、一回目の講習内容に加えルートセッティングや学科試験、ミニコンペ方式の検定等を実施した。今年度の検定結果は、合格者 9 名、過年度合格者 1 名、保留者 3 名で、今後の各種コンペにおける活躍が期待される。

## 高所登山講習会 8/23-25 富士山

8 月 23 日(金)から 25 日(日)の 3 日間で高所登山講習会として富士山に登頂してきた。参加者は講師 1 名、参加者 3 名(道岳連 2 名、一般 1 名)の 4 名。

6 月に富士山が世界遺産に選定され、山小屋予約時にはどの小屋も 24 日は満室状態で、当初予定の 24 日頂上宿泊の計画を変更せざるを得なかった。

実際の行程は、23 日に行程的に可能な一番高い標高 3 千 m の小屋まで登り宿泊、24 日に登頂しお鉢周り後に下山、宿泊とし、最終日は移動となってしまった。

23 日朝一番の羽田便に搭乗し、到着後レンタカーで富士山へ。昼過ぎに我々の登る富士宮口のシャトルバス乗場、水塚公園へ到着。シャトルバスに乗り換え富士宮口五合目登山口へ。13:15 登山口を出発。雲の中の登山だが時々下界が見えたり、下界の雷鳴や電光が確認できる。15:30 元祖七合目、標高 3,010m の山口山荘に到着し宿泊。

24 日、ご来光をめがけ夜中に出発予定だったが、風雨が激しく夜明けまで待機する。やや落ち着いた 5 時過ぎに登山開始。この時点でも風が強く、天候悪化の兆候もあり、吉田口では登山禁止となっていたようだ。この小屋でも下山する人が殆どであった。時々景色を楽しみながら、風や薄くなっていく空気と戦いながら 8:20 頃富士山最高峰剣ヶ峰登頂。強風で一部分大変だった所があったが、何とかお鉢も一周。10:00 御殿場コースから下山開始し、宝永山を経て 13:10 頃に富士宮口登山口に下山。その後山中湖に移動し宿泊。

25 日は雨の中ゆっくりと羽田まで車移動し、機上の人となった。

今回の参加者は 3 千 m の宿泊はものともせず順調に登頂。登頂後に若干の高山病が出る程度であったが、十分に日本最高峰の高度を感じたと思われる。

世界遺産効果で週末の山小屋は早くから予約され満室になっていたが、当日は雨などの天気ゆっったりと宿泊できたし、登山道もそんなに混雑してなかったが、天気が良かったらもっと込んでいたと思われる。我々の登る前はテストとして入山料を徴収していたが、登るときは全くなかった。マイカー規制の延長で全体の登山者や、0 泊 2 日の弾丸登山者は減ったようだ。



富士山最高峰の剣ヶ峰で

(報告 海外登山委員長 工藤 寛)

# 天皇杯・皇后杯今年も入賞

## 第68回国民体育大会 スポーツ東京2013

第68回国民体育大会山岳競技会は10月4～6日にかけて東京都東久留米市を会場に開催された。リード競技は市スポーツセンター屋外特設会場、ボルダリング競技は同屋内特設会場で開催され、男女総合成績(天皇杯)5位(6年連続8回目の入賞)、女子総合成績(皇后杯)3位(4年連続9回目の入賞)と今年も入賞を果たした。

### 派遣監督・選手・トレーナー

成年男子	監督	石井 昭彦	選手	古坂 賢太	杉本 玲
成年女子	監督	長井 洋子	選手	一安 瑛子	萩原 亜咲
少年男子	監督	國谷 斗馬	選手	浅利 礼一	小山 彬
少年女子	監督	一安 敏文	選手	佐々木里穂	小武 芽生
トレーナー		本堂 雄大	稲田 陽一		

### 競技結果

成年男子	リード	11位
	ボルダリング	4位(入賞)
成年女子	リード	8位(入賞)
	ボルダリング	4位(入賞)
少年男子	リード	15位
	ボルダリング	16位
少年女子	リード	5位(入賞)
	ボルダリング	4位(入賞)
男女総合成績(天皇杯)		5位
女子総合成績(皇后杯)		3位



### 杉本選手ワールドカップ優勝

8月24-25日 ドイツ・ミュンヘンで開催されたボルダリングW-cup第8戦(最終戦)で杉本 玲(早大)が初優勝した。杉本はこれまで4位(3回)はあったが表彰台は初めて。年間ランキングで男子10位となった。

(日山協 HPから)



## 第16回 JOC ジュニアオリンピックカップ大会 8/10-12 富山県南砺市

6月美唄で行った選考会で選抜した男子4名、女子2名の計6名の選手が、富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンターで開催された大会に出場した。成績は以下のとおり。



佐々木里穂（北海学園札幌高校2年） 女子ユースA 8位/28人  
 寺田江梨花（遠軽高校2年） 女子ユースA 25位/28人  
 森谷 亮太（遠軽高校3年） 男子ジュニア 17位/23人  
 武者 知希（江別高校1年） 男子ユースB 21位/29人  
 松浦 凌（遠軽高校2年） 男子ユースA 26位/43人  
 岸本 武蔵（美唄尚栄高校1年） 男子ユースA 27位/43人  
 監督・引率 畑野 和宏 長井 洋子  
 参加選手 男子 126名 女子 89名 計 215名

## 第12回スポーツクライミング北海道選手権大会

兼第4回全国高等学校クライミング選手権大会北海道予選会  
 兼第54回札幌市民体育大会クライミングコンペ

10/19-20 Whipper Snapper Gym 北海道工業大学体育館

参加者数 選手 オープン 11名 オープン女子 5名 ジュニア男子 34名  
 ジュニア女子 7名 ビギナー 10名 キッズ 6名

大会成績（総合成績入賞者）

ジュニア男子	1位 小山 彬(札幌稲雲高2) 2位 浅利 礼一(札幌工業高3) 3位 松浦 凌(遠軽高校2)	ジュニア女子	1位 佐藤いぶき(市立中の島中1) 2位 亀田 桃子(遠軽高2) 3位 菅原 未紗(遠軽中2)
オープン	1位 一安 敏文(HFA) 1位 梅津 恒平(酪農学園大1) 3位 小武 芽生(北星学園女子高1)	オープン女子	1位 片山 紗希(酪農学園大1) 2位 藤本 志帆(酪農学園大1) 2位 塚野 萌美(酪農学園大1)
ビギナー (リードのみ)	1位 奥谷 弦(北海道工業大3) 2位 武田 将弥(酪農学園大1) 3位 高橋 諒(北海道工業大1)	キッズ (リードのみ)	1位 井上 桜花(市立清田緑小3) 2位 皆川 莉子(市立豊園小4) 3位 皆川 果歩(市立豊園小6)
ボルダリング(19日) ウィップースナッパージム リード(20日) 北海道工業大学体育館 ※市立⇒札幌市立			



リード



ボルダリング



大会役員の皆さん

# 第4回全国高等学校選抜クライミング選手権大会

12/22-23 埼玉県加須市民体育館

## ..... 小武 芽生選手が女子で優勝 .....

小武選手が、3月のJMAユース日本選手権大会に続き、表彰台の頂点に立ちました。しかも今度は、予選からすべて完登、完全制覇での優勝です。 (競技委員長 山納 秀俊)

(北海道代表選手の成績)

《女子》

小武 芽生 (北星学園女子高校1年)	1位
佐々木里穂 (北海学園札幌高校2年)	13位
亀田 桃子 (遠軽高校2年)	37位
寺田江莉花 (遠軽高校2年)	46位

《男子》

小山 彬 (札幌稲雲高校2年)	30位
松浦 凌 (遠軽高校2年)	30位
野田 龍二 (遠軽高校3年)	48位

《団体》

遠軽高校 (男子 9位 女子 10位)

(参加者数) 男子 92名 女子 76名 合計 168名

## トピックス

### 日本山岳協会平成25年度第3回理事会報告

平成25年11月17日 日本青年館 小野会長出席

- 1 全日大会の見直し、改革
- 2 全国高体連登山部が日本山岳協会に正式加盟
- 3 自然保護指導員総会、中・高年安全登山講習会などは参加低調
- 4 アイスクライミング、山岳スキー競技会の見直し
- 5 トレイルランニングの日本山岳協会としての指針づくり
- 6 クライミングテキストの改定と安全基準の作成
- 7 山の日制定へ 8月12日は白紙(※日航機御巣鷹山墜落事故の日のため)
- 8 山岳共済の加盟促進(25年度共済会会員5万人達成→次の目標6万人)
- 9 新資格制度は ハイキングリーダー(仮称)
- 10 北海道関係 杉本 玲 ワールドカップ ボルダリング優勝  
小武 芽生 世界ユースB 9位  
奈良 誠之 ソチ五輪デモンストレーション派遣  
土屋 勲 全日大会参加10回表彰・日体協公認スポーツ指導者表彰

### 個人会員制度検討特別委員会設置

数年来の懸案事項である北海道山岳連盟の個人会員制度について、既に制度化している他岳連の事例や、メリット・デメリット等を検証する特別委員会の設置を12月の第6回常任理事会で決定した。会長委嘱委員は、益田 敏彦、明田 通世、秋元 節男、荒堀 英雄、土屋 勲、神山 健、小野 倫夫の各氏。

# 今後の諸行事

## 氷壁技術講習会 海外登山委員会・指導委員会

1. 期 日 平成26年1月18日(土)～19日(日)
2. 会 場 層雲峡 銀河の滝周辺 宿泊 ペンション銀河(予定)
3. 対 象 道岳連加盟団体会員(初心者歓迎) 募集定員30名 (締切 1月9日)
4. 参加費 15,000円(宿泊代・夕朝食代、講習会費含) ※キャンセルは実費徴収
5. 日 程 1月18日(土) 11:00 銀河の滝駐車場集合 12:00-15:00 基本動作確認～宿舎移動  
19:00- 机上研修  
19日(日) 8:30-14:00 技術レベルに応じたコースでの登攀～現地解散
6. 申込み 所定の用紙に記入しFax 又はメール(参加料振込は 1月17日まで)  
問合せ・申込み先 工藤 寛 Tel&Fax 011-386-2725 (7:00～20:00)  
e-mail elm-yama@h7.dion.ne.jp  
振込先 郵貯 ぱるる 記号19090 番号37051291 口座名 北海道山岳連盟国際部
7. 携行品 昼食、行動食、長靴(川渡渉用)、ストック、冬装備、ヘルメット、ハーネス、アイゼン、アックス類、クライミンググローブなど(貸出装備あり⇒要問合せ)

## 山岳スキー技術研修会 指導委員会・山岳スキー運営委員会

1. 期 日 平成26年1月25日(土)～26日(日)
2. 会 場 ニセコ花園スキー場・羊蹄山京極コース周辺  
宿泊 札幌山の会 京極山荘
3. 対 象 道岳連加盟団体会員 募集定員20名 (締切 1月12日)
4. 参加費 8,000円(一泊二食) ※スキー場リフト代金個人負担  
懇親会乾杯用飲物分徴収、嗜好品は各自持参
5. 日 程 1月25日(土) 9:00 ニセコ花園主スキー場集合  
9:30-14:30 スキー滑走訓練 15:00 京極山荘へ移動  
16:30-18:00 雪崩対策ほか座学～交流会場へ移動  
26日(日) 8:00-12:00 羊蹄山京極コーススキー登山～14:00 山荘解散  
★初心者対象のグループを設けます。親切、丁寧に研修・指導します
6. 申込み 山岳スキー運営委員会 藤木 晴夫宛にFax 又はメール  
Tel&Fax 0143-85-5897 e-mail fuji8m@nifty.com
7. 携行品 26.27日昼食、行動食、スキー用具一式、三段山地形図、コンパス、シャベル、ビーコン、ゾンデ棒、ルート旗(持参できる人)、その他(防寒衣、洗面用具など)

## 冬山講習会 普及委員会

### Part I 音江山・カムイスキーリンクス周辺

1. 期 日 平成26年1月18日(土)～19日(日)
2. 会 場 音江山・カムイスキーリンクス周辺 宿泊 道立深川青年の家 0164-25-2059
3. 対 象 道岳連加盟団体会員及び一般登山愛好者  
募集定員30名 (締切 1月10日)
4. 参加費 12,000円(一泊二食宿泊費、講習料、傷害保険料) ※道岳連会員 10,000円

5. 日程 1月18日(土) 9:30 深川青年の家集合～オリエンテーション、班分け  
 10:10-15:00 スキー班、スノーシュー班別に実習開始～宿舎移動  
 19:00-20:00 机上講習会  
 19日(日) 9:00-15:00 読図、雪崩対策、シール登行、深雪滑降～現地解散
6. 申込み 荒堀 英雄(普及委員会)宛 Tel&Fax 0155-36-2226 e-mail tomhero@eagle.ocn.ne.jp  
 振込先 郵貯 記号19050 番号39987961 加入者名 北海道山岳連盟  
 一般金融機関から振込 店番 九〇八 口座番号 3998796  
 ※メール、電話で申し込み後、2週間(1月19日)までに振込分を正式参加とする
7. 携行品 行動食、山スキー・スノーシュー用具一式、地図、コンパス  
 その他(防寒衣、洗面用具など)、用意できる人 ビーコン、ゾンデ棒、スコップ

## 冬山講習会 普及委員会

### Part II 日高日勝峠周辺

1. 期 日 平成26年2月8日(土)～9日(日)
2. 会 場 日高国際スキー場・日勝ピーク周辺 宿泊 国立日高少年自然の家 01457-6-2311  
 《1日目⇒日高国際スキー場周辺 2日目⇒ペケレベツ・沙流岳登山他》
3. 対 象 道岳連加盟団体会員及び一般登山愛好者  
 募集定員30名 (締切1月31日)
4. 参加費 12,000円(一泊二食宿泊費、講習料、傷害保険料) ※道岳連会員 10,000円
5. 日 程 2月8日(土) 9:30 日高青少年自然の家・日高スキー場無料休憩所集合～打合せ  
 10:10-15:00 山スキー班、スノーシュー班別に実習開始～宿舎移動  
 16:00-17:30 机上講習会  
 9日(日) 8:30-15:00 班別に行動、ペケレベツ・沙流岳登山・滑走～現地解散
6. 申込み 7. 携行品はPart I に同じ

## 山岳団体活動実績報告研修会 平成26年3月開催予定

今年度からは、従来3月に行っていた「山岳会活性化研修会」の内容を、道岳連傘下山岳団体の「発表の場」に変えることにしました。

従来の「山岳会活性化研修会」はそれなりに意義のある研修会でしたが、内容が抽象的で難しいためマンネリ化して活発かつ発展的な議論が出ず、担当者が非常に苦慮していました。

そこで、各山岳会が取り組みやすい内容にとのことで、ひとつは各山岳会が現在取り組んでいる、あるいは取り組みたい山に関する研究テーマ、もう一つは自山岳会が取り組んだ山の実績、という2つのテーマで、各山岳会の発表の場として募集することにしました。

現在発表山岳会を募集していますが、応募が揃い次第要項を発表します

### 道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.70 平成26年1月 日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区平岸2条9丁目1-47-502

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄